

## 第6節 北海道厚真町上幌内モイ遺跡 擦文文化期の土坑底堆積物の

## 寄生蠕虫類虫卵検査結果

酪農学園大学獣医学部感染・病理部門/野生動物医学センター

浅川満彦\*・渡邊秀明・的場洋平

## 序

考古学的遺構などで糞便と目された遺物から寄生蠕虫類の虫卵を検出する試みは、本州での調査で実施されているが(金原 1997)、北海道では希である(浅川ほか 2004)。今回は、厚真町上幌内モイ遺跡の擦文文化期(11世紀代)の土坑底堆積物を対象に検討したので報告する。

## 分析目的と経緯

擦文文化期の自然堆積の土坑、ⅢP-10(60×60×70cm)とⅢP-21(35×35×60cm)の最下層に保水性の富む砂質土壌が水平に約2cm堆積していた。擦文文化期やアイヌ文化期と報告されるこの様な「ろうと状」土坑(遠藤・田村ほか 1995)は、千歳市ウサクマイB遺跡(西連寺・田村 1979)、同市ウサクマイN遺跡(遠藤・田村ほか 1995)、同市ユカンボシC2遺跡(豊田・松田ほか 2002)などから検出されている。現在のところ、厚真町と千歳市周辺でしか確認されておらず、性格についても不明である。このことから、理化学的分析法を用いてその用途等についての推察根拠となるデータを得ることを目的とした。

寄生蠕虫類の虫卵の検出法を試みた経緯としては、調査者の土層観察所見より、土坑底堆積土壌の特徴や、当該期における雑穀農耕の施肥の有無を考慮した上で「肥溜め」と想定し、今回の分析を依頼した。多忙の中、快諾を頂いたことに感謝申し上げます。(加筆 乾)

## 土壌サンプルと方法

No. 2069, No. 2070, No. 2071 とされた土壌サンプル(表1)から、1回それぞれ30gを秤量し、2回、虫卵検査を試みた。現地におけるサンプリングは、厚真町教育委員会の調査員が行い、陰干しののち、約4ヶ月間暗所保管されていたものである。分析方法は堆積物を水道水で溶かし、市販の茶漉しを用いて沈渣を得、比重1.20の蔗糖液にて浮遊させ、浮遊した浮遊物を18mm×18mmのカバーガラス(各回3枚)に付着させて、400(10×40)倍光学顕微鏡で観察するウイスコンシン法変法を用い(今井ほか 2003)、スライド標本は全視野を鏡検した。

表1 分析土壌サンプル一覧表

試料番号	遺構名	層位	土量	備考
No.2069	ⅢP-21	6層(坑底直上層1cm)	0.8g	
No.2070	ⅢP-10	10層(坑底直上層2cm)	1.4g	
No.2071	ⅢP-21	6層(坑底直下層2cm)	1.4g	

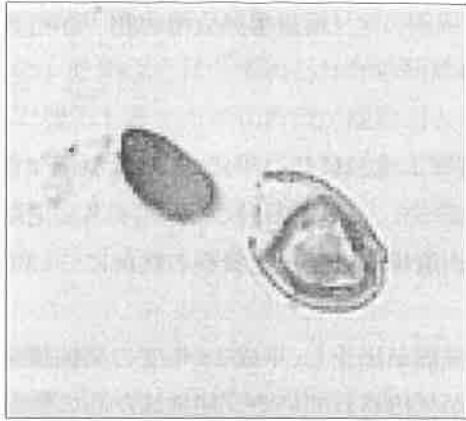
## 結果

いずれのサンプルからも、蠕虫卵と目されるものは検出されなかった。しかし、図に示す多様な花粉（島倉 1973）のような微小化石は、高頻度に検出された。このことから、当初より蠕虫卵は含まれていなかった可能性が考えられる。

## 引用文献

- 浅川満彦・的場洋平・佐鹿万里子 2004. 北海道森町倉知川右岸遺跡のタヌキ溜糞と推定された灰状堆積物から検出された小哺乳類の同定および寄生蠕虫類虫卵検査について。（財）北海道埋蔵文化財センター（編）. 森町倉知川右岸遺跡, 北埋調報, 196:329-332.
- 今井壮一・神谷正男・平 詔亨・芽根士郎. 2003. 獣医寄生虫学検査マニュアル, 2刷, 文永堂出版, 東京: pp. 306.
- 金原正明. 1997. 自然科学的研究からみたトイレ文化. (大田区立郷土博物館 編) トイレの考古学. 東京美術, 東京: 197-216.
- 島倉巳三郎. 1973. 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館, 大阪.

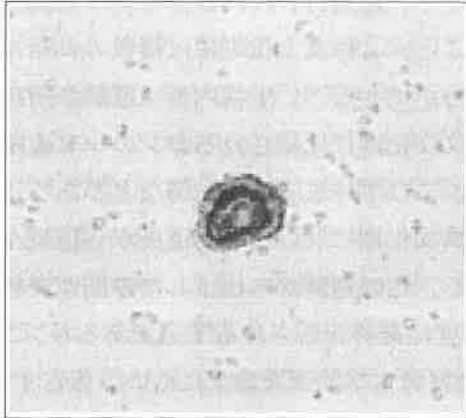
No. 1



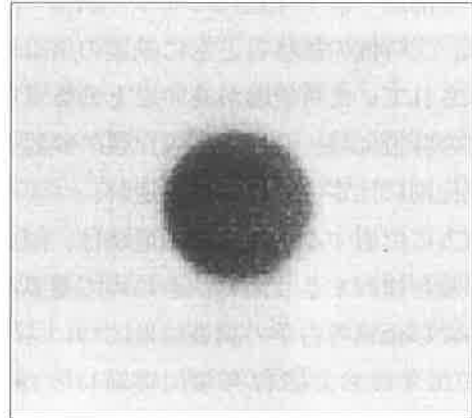
No. 2



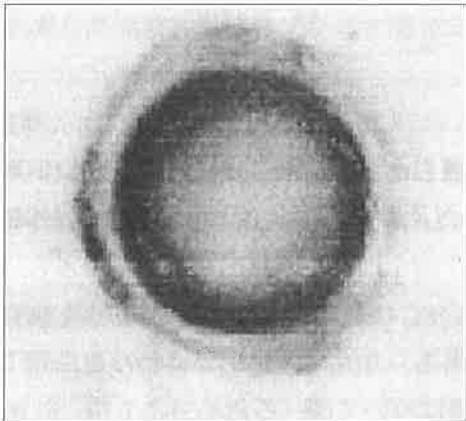
No. 3



No. 4



No. 5



No. 6

